

番外編～札幌大に贈る特別試合

部員不足のために今年の道学生選手権（秋季リーグ）を棄権した札幌大アメリカンフットボール部に、ユニホーム姿でボールを追う機会をプレゼントする一戦が10月25日、札幌大グラウンドで行われた。札幌大OBで、道社会人連盟の早川克典アドバイザーらが企画したメモリアルゲーム。札幌大、北海道科学大、北星学園大の合同チームが社会人の札幌ベンガルズ、北海道ライズ、北海道ブルズの合同チームと対戦し、好天に恵まれた初秋のフィールドに熱いプレーが炸裂し、友情の歓声が響いた。

この日が最終節になる社会人のノースランドリーグの特別試合として実施された。学生合同チームは札幌大が小笠原大剛主将（4年）ら5人、北海道科学大が伊藤公昭主将（4年）ら10人、北星学園大が竹田凌河主将（4年）ら10人。札幌大は水色、北海道科学大は黒、北星学園大は青色のユニホーム姿で勢揃いした。札幌大と同じ2部の北海道科学大は今季公式戦が18日に終えた1試合のみ、1部の北星学園大も相手校の棄権で今季の公式戦は18日に行った1試合のみになり、両校にとっても特別試合は貴重な実戦となった。

試合開始1時間前からタイミング合わせを行ってキックオフに臨んだ学生合同チーム。最初の社会人合同チームの攻撃シリーズでいきなりTDを許したが、札幌大のCB小金龍東（2年）とDE小笠原が相次いでロスタックルを浴びせるなど気迫十分。北海道科学大のLB塚本嵩都（4年）、DL伊藤、北星学園大のDB北野啄夢（3年）も中央のラン攻撃を封じ、第1Qは0-6で終えた。

第2Qも社会人合同チームに2本目のTDを許したが、学生合同チームの攻撃陣もパントキックの場面で、相手リターナーのファumbleを北海道科学大WR三船光貴（3年）がリカバーして攻撃権をつなげる好プレーを見せるなど、徐々に動きが良くなってきた。ハーフタイムには「相手守備ラインをしっかりと取ろう」「QBはパスを早く投げよう」「社会人の足が止まってきたらチャンス」など声を掛け合って後半を迎えた。

第3Q残り7分。学生合同チームがようやく本領を發揮した。敵陣8ヤードで迎えた第1ダウン。北海道科学大のQB加川惣一郎（3年）のパスが、エンドゾーン前の北星学園大WR竹田にヒット。竹田がそのまま飛び込み、反撃のTDを奪った。「このゾーンが空くから、アドリブで投げてほしい」とハドルで竹田が加川に耳打ちして生まれた一投。竹田は「初めて組んだQBだったけれど、うまくいった」と試合後、満足そうに胸を張った。第3Qは北星学園大のDB嵐田勘太（4年）がインターセプトを見せた。

6-14で迎えた最終Q。北星学園大のDB西智樹（3年）がパスをカットし、DB嵐田が2個目のインターセプト、北海道科学大のDL伊藤とLB塚本、札幌大のDE小笠原が何度もハードタックルを決めた。社会人合同チームに4本目のTDを許し、残り2分を切って自陣20ヤードからの最後の攻撃シリーズ。北星学園大

のQB二階堂真登（4年）がパスを連投して懸命にボールを進め、敵陣27ヤードでラストプレーとなったが、無念のインターセプトでタイムアップとなった。6-28の惜敗だった。

試合後、全員でハドルを組んだ学生合同チーム。北星学園大の竹田主将は「みんなが集まり試合ができたことがうれしい。楽しかった」と「チームメート」たちをねぎらい、北海道科学大の伊藤主将も「試合は負けたが、楽しかった。これからも機会があれば一緒に試合をしたい」と笑顔で全員を見回した。特別試合の主役・札幌大の小笠原主将は「みんなのおかげで試合ができた。本当にありがとうございました。それだけです」と声を詰まらせた。そしてハドルが解けた後、「試合ができずにシーズンが終わると思っていたので、早川さんや科学大、北星大、社会人の皆さんに感謝したい。今後は後輩たちのために、部員勧誘など卒業まで出来ることをやりたい」と言葉を続けた。

【今季初の水色のユニホーム姿で攻守に奮闘した札幌大の小笠原主将】

